

視覚聴覚障害アドボカシー研究所（所在地：東京都武蔵野市）

事業名

武蔵野発スーパーダイバーシティとしての視覚・聴覚障害者の生涯学習プログラム

主な連携先

武蔵野市

主な対象

視覚障害・聴覚障害・盲ろうの当事者および市民

事業の趣旨・目的

- ・武蔵野市民（当事者を含む）や地域で活動する支援者への啓発活動
- ・市役所内外での情報保障についての助言・動画教材作成
- ・多様な視覚・聴覚障害者の支援方法の浸透
- ・DX活用による多様な視覚・聴覚障害者相互のクロスアドボカシーの実現
- ・バリアフリー動画「むさしのさんぽ」作成・武蔵野を視覚なしで楽しむ朗読会

事業実施体制

連携協議会の委員は武蔵野市の職員と多数の視覚障害者、聴覚障害者、盲ろうの当事者である研究者・弁護士等有識者である。加えて手話通訳士・盲ろう支援者および非当事者の視覚・聴覚についての研究者が参加し、支援者チームは地元の大学等のインカレで作ったチームである。

学習プログラムの内容

- ・盲ろう者のための指点字講習会
- ・盲および盲ろう者のためのコミック、数式等理系科目のデータ化のあり方検討会
- ・ろう者のための字幕付け研修
- ・武蔵野市をバリアフリーで世界に発信するためのインカレのグループ活動（亜細亜大学・武蔵野大学・日本社会事業大学・つくばろう学校の学生・生徒）「むさしの散歩」のバリアフリー動画作成
- ・全盲朗読者による国木田独歩『武蔵野』の朗読を市民に提供
- ・IT利用についての指導動画

今年度の取組状況

- ・視覚障害・聴覚障害についての地域への啓発活動のために地元の学生や、視覚障害・聴覚障害の学生でチームを作った。その指導者として盲ろう（弱視難聴）当事者の若手の研究者・実践者がついている。
- ・視覚障害者向けの支援技術の概要や実際に試してみる方法の紹介など、オンライン時代にふさわしいDX活用の情報保障の教材を市役所内外に提供するために盲当事者の専門家が作業をしている。
- ・聴覚障害者と視覚障害者のクロスアドボカシーのために、ろうの連携協議会委員とエンジニアがチームを作っている。

その他研究の詳細など

見えない人、聞こえない人がモダリティを越えてともに学び合うクロスアドボカシーを実現する。読むことは視覚と必ずしも関係がないし（指で読む人もいる、音声読み上げで読書をする人もいる）、話すという行動は必ずしも声とは関係ない（手で話す人もいる。）ということの脳科学的・認知科学的立証などを支援方法や市民の啓発に積極的に活かす。また本年8月末に実施された国連障害者権利委員会から日本政府への初めての評価と勧告（「総括所見」）も視覚・聴覚障害者の支援に活かす。

